



近世人物誌

近衛家の老女村岡

近衛家の老女村岡は慷慨の婦人なり。夙小朝威の振をさるを嘆きて、恢復の志あり。安政五年幕府勅許を俟たずして外國と條約を結びより、近衛左府鷹司右府一條内府三條前内府二條亞相一て内勅を水戸黃門へ賜るの擧あり。村岡も其事小與つて力あり。いとの人偶將軍を謀殺す。鷹司家の士小林民部水戸の臣安嶋帯刀と謀り一橋形部卿を幕府に入れ、攘夷の擧を實行せんと謀る事露はる時の大老井伊直弼其臣長野主膳を京都に遣はし、朝紳及び在京の儒生等十數人を捕へ、江戸小盤送す。村岡も其中小在り。世ふまを安政戊午の獄と言ふ。斯くて村岡、日々糾問を受たきとも更不屈する色なく。滔々幕政の失を陳べ、幕吏の心を寒かす。かや女丈夫と云ふべし。



發行所 東京 京橋区 又本と新聞社